

各社の考え方	
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンを通じた温室効果ガスの排出量を算定することが、社会的及びビジネス上の要求になりつつある中で、Scope3の算定を行い、サプライチェーン全体を通じた削減対策を実施することで、更なる排出量管理の向上に繋げる。● 削減のポテンシャルが大きい段階を明確化し、より効率的な削減対策の実施を目指す。● 大日本印刷の製品は、完成品と中間材の双方があるが、いずれも出荷後の使用段階等での排出量が、どの程度の影響をもつか不明確である。算定を通じ、今後の製品仕様の見極めに有効な情報が得られる可能性がある。● サプライチェーン全体の排出量を算定している企業の事例がまだ少ないなかで、自社の排出量を算定・開示することは、社会的並びにビジネスにおいても一定の評価が期待される。また、完成品、中間材双方を製造する当社が試算を試みることは、意義ある事例となる。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン全体の排出量について、一定の算定方法を確立することにより、経年的な排出量の増減を定量的に確認する。また、データ精度の課題を明確にし、精度向上を図る。● 多岐に渡る物品の取扱いに関連して、サプライチェーンを通じた排出量の算定方法を習得し、物量データ等のデータベース化を目指す。● 企業活動全体に対するサプライチェーンを通じた排出量集計を、順次細分化することで、製品群別、得意先別、製品別(カーボン・フットプリント)のデータ集計が可能となり、今後高まるであろう得意先の開示要求に対応する。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 上記活用方法を通じて、削減ポテンシャルの明確化、算定手法の洗練化、得意先の開示要求への対応等が可能になる。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● データを他部署から集め、環境部門で算定を行なっている。● データの収集元は、購買部門(カテゴリー1, 4)、経理部門(カテゴリー2, 8)、環境部門(カテゴリー3, 4, 5)、労務部門(カテゴリー6, 7)、管理部門(カテゴリー9, 11, 12)である。

各社の考え方

□ サプライチェーン排出量の削減に向けて

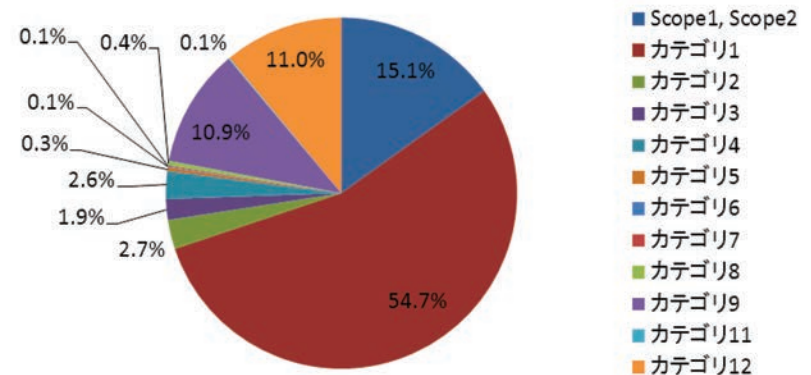
- グリーン購入の推進、環境配慮製品の開発・販売、また荷主としての輸送の効率化等を通じて削減を図っている。
- また、2012年度に行った算定を通じて、サプライチェーンのどの部分の削減ポテンシャルが高いかを把握し、より効率的な削減を目指す。

□ サプライチェーン排出量算定の課題

- 大日本印刷の製品は中間材が多いため、下流の販売した製品の加工・使用(カテゴリ10, 11)の算定が難しい。
- 2012年度に行った算定では、PETボトル・プリフォームの使用時(ペットボトルに加工され、飲料として売られたものが冷却される際に使用されるエネルギー)のみ対象とした。
- 他の部品の加工・使用については、完成製品全体に占める重量が小さいか、加工・使用の際のエネルギー使用がないため、算定対象外としている。

□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- いかにデータを収集するかが重要となるため、会社全体を挙げて算定することが大切である。
- 大日本印刷では、環境部門を中心に様々な部署の協力の下、包括的にデータを収集したため、数多くのカテゴリを網羅的に算定することが可能となった。
- 最初に算定を始める際には、データが集まらないということがまず大きな障壁となるため、この部分を解決することが重要である。



サプライチェーン排出量の算定結果

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> ● 資材購入量(重量、金額) (重量>金額の優先順位で把握) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CFP基本・利用可能DB ● 3EID (CFP>3EIDで利用)
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地・建物や機械器具の取得金額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3EID
カテゴリ3「Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動」	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料、電気、蒸気のエネルギー使用量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原単位DB*
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 荷主輸送分のトンキロ、サプライヤ輸送分の推定トンキロ(※) (※積載量、積載率、輸送距離についてシナリオを設定し、購入重量に基づきトンキロを推計。購入重量が判らないものは、判明しているものの単位金額当たりの重量を利用し、購入金額より重量を推計。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CFP基本DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物の種類別・処理方法別の重量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原単位DB*
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> ● 出張・近隣移動の推定旅費(※)、近隣交通費支給額、宿泊日数 (※移動手段別に代表的経路をシナリオ設定し、利用回数から算出) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原単位DB*
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤手段別の支給金額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原単位DB*
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 建屋や機械のリース金額 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3EID
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙製印刷物等6製品種別の推定輸送トンキロ(※)、販売容量、販売額 (※CFP制度のPCRに基づき、算定対象種類毎にシナリオを設定) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CFP基本DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売した製品の加工なし、又は最終製品の構成割合が微小なため、算定せず。 	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> ● PET飲料の冷蔵の推定使用電力量(※PCRに基づき推定) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CFP基本DB
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙製印刷物等6製品種別の処理方法別廃棄物排出量(※PCRに基づき推定) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CFP基本・利用可能DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」		
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ● 非該当 	
カテゴリ15「投資」		